



BRC

## CB400Four

### 当時は存在しなかった 幻の'70sカフェを仕立てる

TIRE:DUNLOP TT100GP [F]3.00-18,[R]3.50-18

「ヨシムラアあって、ヨシムラ仕様はわりと見かけるけど、なぜかモリワキ仕様って見かけないでしょう。それで作ったのが、この車両なんです」(BRC代表・渡邊さん)

それもそのはずで、70年代当時モリワキからはCB400Four用の外装キットは発売されていなかった(70年代にモリワキが手がけていたのはZ1000エンジンを搭載したモンスターで、CBX400FとZ400FXで国内TT・F3に参戦するようになるのは82年から)。要するにこの車両、セレクトIIフシミレーシング製のロングタンクとシングルシートを装着し、カラーリングを青×黄のモリワキ仕様、つまり400版モリワキ・モンスターにしたという、かなりひねった70年代カフェスタイルなのである。もし、あったと言われれば頷くしかない勢いだ。各部パーツのセレクトも、凝りに

凝っている。ヘッドライトはマシヤル、ハンドルはリード、レバーはマグラのパワーレバー。もちろんどれも当時モノのリアパーツばかりだ。手曲げ最終型の直管マフラー、他機種用対応品を加工流用したという角タイプのスイングアームなど、BRCがストックしているパーツに関してには、できる限り自家モリワキのパーツを使っている。だが、これも普通ならなかなか手に入らないレアなパーツばかりであることは、言うまでもないだろう。

その上でキャブレターをCRに、EXを集合タイプにしたことでエンジンの伸びと吹け上がりが良くなった(渡邊さん)というのは、この車両がルックスだけに注力したのではないことも教えてくれる。当時の雰囲気を取りアルに感じさせる裏には、こうしたBRCの地道な努力、そしてアレンジ力の両方が光っているのだ。



1 ベースは75年式でフレーム補強などは、あえて入れてない。これも当時のイメージを壊さないための処理だ。フォークはSTDをベースにBRC製エアフォークキットを組み込み、インナーチューブにはアルミ砂型スタビライザーも装着

2 ロングタンク、シングルシートはセレクトの当時モノをチョイス、それをモリワキカラーにリペイントしている。サイドのMORIWAKIロゴやトップのステッカーで雰囲気はなかなかのものだ。アルフィンカバーはBRC製、リヤサスはS&W製(モノロー)と各部パーツ選択もかなり濃い

3 4 エンジン408cc用クランクとヨシムラ製ピストンによりボア×ストロークを54.5×50mm=466ccに設定。さらにヨシムラST-1カム、CRキャブ+モリワキ製手曲げマフラーなどにより、高回転までしっかりと回る特性となっている

5 1.85-18/2.15-18サイズのホイールはBRC製セブンスターホイール。スイングアームはモリワキ製を加工流用している